……座談会＝夏休みこども対策について……

夏休みは体力づくりで

早期発見で非行化防止

★…こどもにとってたのしい夏休みがきました。…☆
☆…これからは学校から放れて、家庭の生活が中…★
★…心となり、こどもの気持ちがとかくゆるみ勝…☆
☆…ちになるときです。水や交通事故、非行化と…★
★…問題の多い季節の家庭学習と生活など、目ご…☆
☆…ろからこどもたちの幸せを希って活動してい…★
★…る人たちに、夏休みのこども対策について語…☆
☆…ってもらいました。……★

＝こども教室はどうか＝

▼夏休みのこども教室は、夏休みをたのしく過ごさせるため毎年行なっている。

▼これまでは全市的に延五、六百人のこどもたちを集め三、四の会場でいろいろの形で開らいてきたがことしは香長、香南、蔦ケ池、北陵中学校の四ブロックごとに一会場とし、八月三、四日を中心に図工美術、毛筆（硬筆）、理科、音楽、植物採集、水泳、剣道などの講座を開らくことにしている。

たくさんの児童の参加を期待したい。

＝こどもを水の事故から守るためにどのような対策を講じているか＝

▼物部川には水泳の指定区域を決め、監視人を置いている。しかし、国分川の状態は昨年よりもよいが、ことしも全面禁止となるだろう。

▼水の事故を事前に防ぐことはもとより、事後の措置も大切である。補導センターでは水難防止のための注意や、救急法などをPTAやこどもを対象に希望した学校で指導に当っている。

▼こどもたちは単なる水遊びではなく魚とりなど、流れのスリルに興味をもっており、それが禁止区域での遊びにつながっている。物部川はダムの放水で七十㌢水かさが増すので、深いところでの遊びは危険だが、こどもは監視人のいる指定場所での水遊びを嫌うようである。

▼水難を防止するために禁止場所、普段泳いでいる場所を巡回し指導を行なっている。しかし注意したときのみでハエを追ったような結果のくりかえしに終っている。

しかも禁止されている場所だと知っていながら、附近大人たちは放認して注意してくれない。

▼こどもは水の深さというものを考えない、知らず知らずに深みにはまり込み、事故を起こすことになる。また禁止場所は〝くだもの〟と関係があるようだ。〝なりもの〟を盗まれたという農家からの苦情が多い。

▼海での水泳は禁止されているが黙認している。浜の子に海で泳ぐなということは無理なことだ。だが海を知らない里のこどもたちがスリルを追うのは危険である。

▼泳ぎを禁止することで、かえってこどもの気持ちを萎縮させることになってはいけない。責任者がついている場合は禁止区域であってもよいだろう。

また、こどもに〝だれとどこへ〟行くということの連絡を忘れずにさせるように、目ごろからしむけておくことが大切である。

▼プールの普及によって水の事故は減っているが、やはり川や海への興味にこどもはひかれるようだ。

指定区域で遊ばすために、スイカ泰いなどこどもが興味のある遊びや、催しものを行なってはどうだろう。海で泳ぐ場合でも監視人をつけるべきであるがそれができない場合は、週に一回ぐらい水泳教室を開らき、監視人や指導者をつけるようにしてはどうだろう。

▼プールのできた結果、水泳の比率は高くなったかも知れないが金づち組も多い。競技会や、記録会、海での遠泳（遠泳）などを行なって海に親しますことも

人　　語　る

司会　武田茂義
治　稲田浩司
秋　茂上彰
彰　義川三
司　浩本覚
馬　岡速
雄　端雄
雄　村野
小篠教員
教員池ケ蔦
中教員中香
教育研究所長
南国署少年係
〃
補導センター
青少年対策推進本部
山島蔦中生徒会長
細木香長中生徒会副会長

……座談会＝夏休みこども対策について……

こども夏休み対策について

放任はやめてみんなで指導を

＝こどもの不良化防止はどのような注意が必要か＝

▼交通教室をやって少しづつ進ってきた。知識としては覚えているが実際にはなかなか守られていない。

大人が実践しないのでどうもいけない、親子の間でも実地訓練の機会がある。

乗せてもらいたいこどもが道の中で手をあげて、車をとめることがあるが危険だ。それにどのような災難が降りかかるかも判からないので、便乗することはすべきではない。

また、こどもの便乗を絶対にしないことにしてほしい。

▼自転車の無灯火や、自転車の横隊での通行などなくしてほしいことも多い、軽快車（ハンドルが下に曲ったもの）が増えたが室戸のある学校では軽快車を禁止している。どうもこどものいなりになっている傾向にある。根性のない先生、親の権限がなくなったという低姿勢がいけない。ともに姿勢を直してほしい。

▼モーターの無免許乗りがあるがそれも家のものが乗せていてほしいということで、運転したというものが多い。ぜひ親が乗せないようにすべきだ。軽快車（ハンドルが下に曲った車）は禁止してほしい。

＝家庭生活と学習について＝

▼こどもたちは夏休みをゆっくりのんびりしたいというのが望みであろう。このごろランドセル箱廃止という学校もできだした。しかしある程度の勉強は必要だ。

熱心なこどもはいろいろ勉強するが、そうでない子は好きなことを二つ長くやらすこともよい。嫌いなことはむつかしいが個人差をつけて継続してやらすべきだ。

家庭に用事のないこどもは遊びのグループができる。生活グラフなど課題を出してやらすこともよいだろう。

（以下四頁へ）

育成状態は＝

▼こどもの不良化防止はセンター警察と一緒になって、広報活動学P連を通じての補導の強化、こども会の育成、遊びを通じて不良化を防止するという三つの柱をことしの目標としている。

▼八月には「ナシ」の収穫期となるが例年盗まれる。一昨年はとくにひどく南京袋で毎日盗まれていた。一度は現場をとりおさえたが逆にナイフでおどしつけられたことがあった。

▼こどもだから一つ、二つはよいだろうと大人たちは見逃がしているが、それが次第に大きくなって、盗癖者となり非行化への原因ともなっている。また、それらの非行少年はグループ（四～五人）をつくっていることが多い。

早期発見、早期治療によるこどもづくりは、市民全体でやらなければならない。

▼プールを夜間利用し、くだものをねらうものがいる。夏休みをひかえて十市地区などの夜間監視も考えている。

なかには浜へテントを張り、盗んでき「ナシ」や「スイカ」などを食べていたというグループもあったが、これらは家庭環境に問題があったものだ。

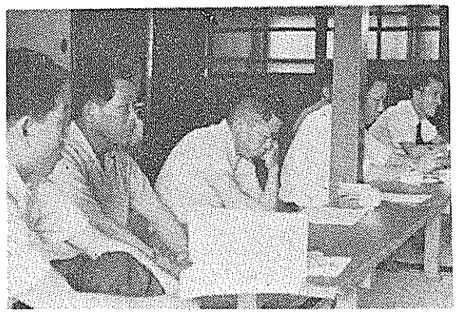
▼夜間ともだちのところへ遊びにゆくことや、就職していたものが離職して帰り、家でブラブラしているものに問題がある。

▼ことしは事件が多いので、お気付きの点があれば学校かセンターまたは、警察へ連絡してほしい。不良化防止の呼びかけとともに、非行を発見したときの連絡方法などをチラシとして、一般に周知したい。

▼市内に小学生を中心として百三十五のこども会がある。これらのこども会のできた動機は、こども自体からできたものが三つ大人たとの呼びかけ三つ、教師の世話によるもの百二十八となっている。しかし実際年間を通じて行事活動をしているものは、わずか二十ぐらいのものである。

▼こども会は教師がやるべきだという地域の人たちは考えているようだが、それは間違った考えで、地域の大人たちの責任によって指導育成をなすべきである。そうあることで大人とこどもの心のふれ合いができ、大人たちの注意をよく聞きいれて守るようになる。地域ぐるみでの指導をのぞみたい。

こども会の育成は地域ぐるみで



＝交通事故から守るためには